

B 131 胴部展開の基礎研究

日本女子大学 樋口ゆき子 山田喜美江

○二宮玲子 恒川ス子 立花寿子

目的 モアレ写真より生成した胴部モデルの展開について、才33回総会で接線による近似展開、実長による展開を報告した。接線による展開は、横断面をもとに、外接多面体を三角形法により展開したものであり、わじれ面が生じ、好ましくない。

今回は、接平面包絡面を基礎とした外接多面体群を作成し、展開パターンの検討を行った。

方法 モアレ写真より生成した胴部モデル(バスト〜ヒップライン)のウエストラインを中心にして1cm間隔の横断体型を作成し、次の手法による接平面包絡面を基礎とした外接多面体群を生成し、展開図の作成を行った。

- (1) 曲面と外接多面体との距離の最大を与えたときの近似展開法
- (2) 外接線の交角を一定にした近似展開法
- (3) 中心角を与えたときの近似展開法

結果 以上の手法による展開パターンの前回で得られた展開パターンとの比較検討、横断面間隔の違いによる展開パターン、交角の違いによる展開パターン、中心角の違いによる展開パターンについて検討した。